

2nd circular

2013年9月10日

\*\*\*\*\*

\* **第17回東京科学シンポジウム** \*

\* **テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く** \*

\* **—科学の成果を正しく生かし、真の豊かさを築く—** \*

\* **開催日時：2013年11月30日(土)～12月1日(日)** \*

\* **開催場所：中央大学(多摩キャンパス)** \*

\* **主 催：日本科学者会議東京支部** \*

\*\*\*\*\*

### 第17回東京科学シンポジウム 2nd Circular 発行にあたって

会員のみなさん、協力者のみなさん

第17回東京科学シンポジウム開催の呼びかけ(1st Circular 7月10日付)から2カ月が経過しました。短期間にもかかわらず、呼びかけに応えたみなさんの熱心な取り組みにより、メインテーマ「理性と希望の平和な時代を切り拓く—科学の成果を正しく生かし、真の豊かさを築く—」にふさわしく、特別報告、19分科会、4つの市民参加の諸企画の設置が決まり、それぞれが成功をめざして活動を開始しています。この2nd Circular への掲載には間に合わなかったが、計画中のものもあります。

東京支部はこの間、東京での原水爆禁止2013年世界大会・科学者集会開催の要請を受けて、困難があっても伝統ある科学者集会が開催されない事態を避けるために、科学者集会と東京科学シンポジウムとの活動が相乗効果を発揮して前進するように努力することを意志統一しました。二つの集会が、厳しく複雑な情勢、歴史の転換点・節目をなす時代状況において、矛盾のつば東京で開催されることを重視し、それにふさわしい努力をして、見事に、8月1日の科学者集会(テーマ「核兵器の廃絶! 原発の廃止! 逆流を越えて さらに大きなうねりを」)を成功に導きました。

科学者集会開催に取り組むにあたっての科学者集会実行委員会および東京支部の議論の特徴の一つは、私たち研究者が真に研究者として成長し、真実を発見し、それらを国民と共有したいと願うならば、さらには、真に平和を希求し、研究者として人間らしく生きたいと願うならば、そのための障害を取り除くために、特定の勢力と対決せざるを得なくなることは当然ありうることの理解をも深めたことです。

この2nd Circular に掲載された内容は、特別報告をはじめとして全体が、科学者集会を開催するにあたってのこのような議論の内容を深め発展させ、まさに歴史の転換点・節目をなす時代状況にふさわしく「相乗効果を発揮して前進」させたものとなっております。

東京支部全会員の専門的な見識と力、多くの人びとと結びついた豊かな知恵を結集して第17回東京科学シンポジウムを成功させましょう。

2013年9月10日 実行委員長 長田好弘

## 1. 特別報告

(1) 石山久男 (歴史教育者協議会前委員長)

### 安倍政権の改憲戦略と歴史認識・教育「改革」の位置

自民党は改憲案の成立をまたずに、その内容を実質的に実行するために、安倍政権の重点政策の一つに「教育再生」(教育「改革」)を位置づけている。そのためにまず過去に国家の支配者が行った行為を美化しなければならない。国家の支配者が過ちを犯すことがあるという観念を国民の頭脳から払拭しなければならないのである。安倍政権の改憲戦略を支えるこのような教育「改革」を許してはならない。「教育再生」を解明し、いま国民にとっての真の「教育再生」を考える。

## 2. 分科会

【1】分科会名:科学・技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part 6—

設置責任者:長田 好弘(東京支部)、酒井 士朗(武蔵野通研分会)

設置趣旨:大震災、原発事故、巨大技術の不具合、ハイテク犯罪の続発など、わが国の高度知識(技術)社会は多くの重大問題をかかえている。これらの解決のために研究者・技術者が果たすべき役割はなにか。そのために必要な諸条件の獲得のためにどう行動するか。これらの交流と連帯を主とした報告・発言の場としたい。キーワード:産官学連携と研究・開発現場の実態、成果主義の破綻、研究者のカーボン、ブラック企業、成長戦略とインフラ輸出、グローバル化(研究開発・生産・部品調達など)、高学歴ワーキングプア、科学者会議・労働組合の役割と責任、その他。

【2】分科会名:IT技術と教育・労働・社会生活 part 3

設置責任者:酒井 士朗(武蔵野通研分会)、矢作 英夫(同)

設置趣旨:安倍内閣は「世界最先端IT国家創造宣言」を決定、IT利用による新市場の創設とインフラ輸出を成長戦略の柱の一つとしている。社会の広範な分野のIT化により、利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、監視カメラ・マイナンバー制度・政府機関によるネット監視など監視社会への不安、ネット犯罪・情報漏洩、子どもと携帯電話・インターネットをめぐる問題等々が重大問題化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のためのIT技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

【3】分科会名:科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 6—

設置責任者:長田好弘、小金澤鋼一、松永光司

連絡先:小金澤鋼一 e-mail:kogane@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

設置趣旨(素案):福島第一原発の汚染水漏れ・海洋流出が「レベル3(重大な異常事象)」となり、原発事故は危機的状況にあるが、政府は「新規制基準」制定など新たな「安全神話」を振りまき、原発の再稼働と海外輸出を目指している。政府は低線量内部被曝の人体影響を無視しており、科学的知見に基づく議論と警鐘が求められている。また、宇宙の軍事利用、「武器輸出3原則」の空洞化が進み、科学・技術の軍事利用とそれへの研究者・技術者の動員が懸念される。また歴代政府施策のもとで研究・教育現場の状況悪化は著しい。こうした状況の打開をめざす議論を始め、科学・技術に関する諸問題を自由闊達に議論する。

【4】分科会名:「平和的生存権」の射程—国際動向・歴史・教育・ジェンダーなどの視点から研究のあり方を考える

設置責任者:石渡真理子

連絡先:i-mariko@jcom.home.ne.jp

設置趣旨：日本国憲法前文に明記された「平和のうちに生存する権利」（以下、平和的生存権）は、多様に豊かな生を選びとることのできる私たちの権利であるにもかかわらず、日本および国際社会に現存する問題は、その行使に高い障壁となって立ちはだかっています。分科会では、以下の点を中心に議論したいと思います。①「平和的生存権」をキーワードとして、国際動向・歴史・教育・ジェンダーなどの視点で現実の問題を浮かび上がらせる。②それぞれの研究領域・問題設定と日本国憲法の価値規範（平和的生存権の実現）との接点を確認し、憲法を研究や生き方にどう生かせるかを考える。

#### 【5】分科会名：大学はブラック企業になってしまうのか？

設置責任者：増田正人

設置趣旨：労働法の改正問題は、これまでの大学のあり方を大きく揺さぶっています。近年進められてきた雇用の流動化や有期のプロジェクトを中心にした研究のあり方、非常勤講師に支えられた教育システムなど、これまでのあり方が否定されており、大学における教育・研究のあり方は変わることが余儀なくされています。どちらの方向に変わるのか、私学連盟などにみられる経営サイドの方向への転換になるのか、それとも、教育・研究に関わる者の地位と権利を守る方向に進むのか、大学人の行動が問われています。

この分科会では、研究、教育の最前線にしながら、その社会的地位の弱さゆえに翻弄されざるを得ない若手研究者、非常勤講師の方の報告、大学経営の制度的な問題など、各方面からの報告を得て、大学改革の方向を考えていきたいと思っています。報告者は未定ですが、3名くらいを考えています。

①若手研究者の有期雇用の問題

②非常勤講師の5年未満での解雇とクーリングオフ期間後の再雇用問題

③労働法改正をめぐる大学の動きと社会的背景

#### 【6】分科会名：日本の高等教育を立て直すために（検討中）

設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）、他（検討中）

連絡先：sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：日本の高等教育は崩壊の危機に瀕している。高等教育再生実行会議などが提言を出し一層の改変に乗り出しているが、重要な問題を看過しているため有効なものとならず、むしろ種々の格差を広げ、この間進めてきた改悪の弊害を増す危険がある。

当分科会では、教育・研究の現場で生じている問題から出発し、問題の発生原因を分析するとともに、解決の展望を考察する。なおJSAは問題の解決のため高等教育関連団体と懇談会をもってきたが、その運動と研究の成果発表の場としても位置付ける。

キーワード：教育権、教育と競争、研究と教育の関係、後継者養成、構成員自治、民主的改革など

#### 【7】分科会：日本における流通の再生と公正取引

設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）

連絡先：sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：1990年代初頭から続く低価格競争によりコスト削減を強いられた日本企業は、賃下げに続き流通費用の削減に腐心している。また流通業ではこの間パワーを増した大規模小売企業が、自社に有利な取引制度を構築し他者に負担転嫁することで一層成長する一方、商店街の空洞化にみられるように中小の流通業者は衰退・停滞を余儀なくされている。

取引が公正であるべきことは万人周知のはずだが、日本の現行の取引制度はその名に値するのか。消費者や中小業者の視点も入れて検討する。

キーワード：「価格破壊」、公正取引、流通政策、商業独占、地域の衰退、フードデザートなど。

#### 【8】分科会名：JSAの運動をいかにして発展させるか

設置責任者：長田好弘（武蔵野通研分会）、佐久間英俊（中央大学分会）、山川賢次（運研分会）

連絡先：sakuma@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：3.11後、人々の生活の苦難が増すとともに科学に対する期待は一層高まっている。だが、広範な学問領域でそれを担うべきJSAは、会員数の面でも低迷しており、そうした期待に十分応えてきていない。当分科会ではJSAの運動に関して、発展のための課題と方策を検討する。すなわち、①市民の期待に応える科学の今日的課題とは何か、②過去20年余の会員減の理由と教訓は何か、③JSAの魅力を高め会員増に転じるには何が必要か、といった点の議論を深めたい。

キーワード：市民の期待、科学者の役割、市民に開かれた運動、JSAの魅力、後継者養成、関東甲信越地区の支部活動の教訓など。

#### 【9】分科会名：災害対策と公共事業（仮称）

設置責任者：渡邊 章

連絡先：e-mail：vakira@d5.dion.ne.jp

設置趣旨：東日本大震災があって災害対策と銘打った公共事業が全国で幅を利かせている。それが本当に災害対策となるのか、災害対策なら、自然破壊はお構いなしなのか、いま鋭く問われている。その実態をリアルに引きずり出し、科学的検討を加えることは、緊急で切迫したテーマとなっている。

#### 【10】分科会名：原発即時ゼロと気候変化抑止の両立を展望する

設置責任者：佐川清隆（東京大学大学院生）、本間 慎（元フェリス女学院大学・学長）

分科会事務局 俣野景彦（JSA東京支部常任幹事）

連絡先：俣野景彦 E-mail:matano@mug.biglobe.ne.jp

設置趣旨：本分科会では、福島第一原発事故の被害の深刻さと、人類の存続に深刻な影響を与える気候変化（地球温暖化）の諸問題を科学的根拠に基づいて明らかにし、その重要性を確認する。その上で、原発即時ゼロと気候変化抑止を両立させる展望として、日本全体の電力・エネルギー供給のシナリオ、省エネルギーや自然エネルギー導入を実践的にどのように進めていくかを考える。また、政府、自治体、市民の役割をあらためて議論したい。

#### 【11】分科会名：生活と地域重視の日本経済への転換

設置責任者 米田貢（中央大学）、八幡一秀（中央大学）

設置趣旨：自動車や電気・電子機器などの輸出関連大企業のグローバル化は、1980年代以降一貫して輸出依存型の経済成長を追求してきた日本の国民経済に深刻な問題を投げかけている。これらグローバル企業の成長は中国や東南アジア諸国のGDPの成長に貢献しても、日本の国民経済の発展や国民生活の向上には成長利益とは一致しない。カネ、モノとは異なり、ヒトはグローバル経済化の時代においても、一定の地域を生活と労働の拠点にしている。大企業・輸出依存の国民経済を、人々の生活と地域を重視した国民経済に転換すべき時が来ている。地域経済を支える産業とは何か、循環型地域経済を各地でいかにつくり出すのか、生活と地域重視の国民経済づくりに財政はどのような役割を果たすべきなのか、さまざまな角度から、新たな日本経済像を探る。

#### 【12】分科会名：アベノミクスを斬る（12月1日：午前を希望）

設置責任者：大西広（慶応義塾大学）

設置趣旨：今夏の参議院選挙における政府与党の勝利の原因は「アベノミクス」の成果の宣伝によるところが大きいが、他方でその問題点も現実の問題として表面化しつつあり、その声もまた共産党への支持という形で現われた。つまり、アベノミクスには、ある社会階層には利益をもたらすが、ある社会階層には不利益をもたらすという関係があるといえる。とすると、誰が利益を得、誰が不利益を得ているのか。これは安倍政権の性格規定とも関わる問題であり、本分科会で討論される。安倍政権は同時にTPPの推進と言った経済政策も推進しているので、それと合わせ討論したい。

#### 【13】分科会名：原発問題を考える文学サロン

設置責任者：風見 梢太郎（作家 武蔵野通研分会）

設置趣旨：前回の東京科学シンポジウムでは、文学に描かれた原子力、原発についての知識を共有

しました。福島原発の事故から二年半がたちますが、今回はこの二年余に書かれた原発事故に関する文学作品を紹介し合い、原発の廃止に向けて文学に何が出来るかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

#### 【14】分科会名：日本の食と首都圏の役割を考える

設置責任者：西村一郎

連絡先：e-mail：info@nishimuraichirou.com

設置趣旨：震災からの復旧・復興の目途がまだ立たない中で、我が国の食にも大きく影響するTPP参加や憲法改悪などの動きが活発化しつつあります。経済優先の資本の論理だけでなく、人々が安心して将来ともに生活できるために、何が日本の食や農などに求められているのか、多方面からの問題提起を受けて参加者と一緒になって考えます。

#### 【15】分科会名：東日本大震災に、立ち向かうということ

設置責任者氏名：星野彬

連絡先： e-mail：king\_of\_turf\_tokai\_teio@yahoo.co.jp

設置趣旨：未曾有の大震災から、早くも2年以上。しかし、津波や原発事故の残した傷跡はいまだ癒えきっていない。原発推進の政府、東電の賠償問題、沿岸部の津波による被災地の復興など、メスを入れるべき問題は多く残っている。問題が山積みとなっている状況で、院生や研究者たちは、3.11直後から今に至るまで、東日本大震災に対してどのように立ち向かってきたのか。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、震災に関連する問題を研究している方や、被災地や反原発の市民運動の現場を体験した方の報告を予定している。東日本大震災に正面から対峙してきた人々の生の声を、この分科会では聴くことができる。

#### 【16】分科会名：人間らしい労働環境を取り戻すために一不当労働行為と労働疾病・職業病と闘う一

設置責任者：米田貢（東京支部）、河上茂（東京支部常任幹事）（希望日12月1日午後）

設置趣旨：安倍政権復活から約1年弱、国民にとって極めて重大な経済政策が強行されようとしている。新自由主義的企業経営がますます強まり、企業における労働者への権利侵害、労働環境の悪化が一段と進んでいる。一方、人間らしい働く環境を取り戻し、真の国民の豊かさを目指す闘いも力強く進んでいる。本分科会では、交通・運輸産業などにおける不当労働行為や多様化・複合化する職業病などについてのリアルな実態を踏まえて、国民生活の安心・安全を確立するための労働者と消費者・国民の連帯について考える。

#### 【17】分科会名：ニセ科学問題（12月1日設置希望）

設置責任者：左巻 健男（法政大学生命科学部）

設置趣旨：ニセ科学とは、科学の専門家かから見て科学ではないのに、「科学っぽい装いをしている」あるいは「科学のように見える」にもかかわらず、とても科学とは呼べないものを指します。ニセ科学は、疑似科学やエセ科学とも呼ばれますが、基本的に同じです。EM、マイナスイオン、健康食品・サプリメント、デトックス、ホメオパシー…と程度の差はありますがニセ科学が世にあふれています。とくに健康系（水、食品、身につけるものなど）に多いです。3.11大震災を契機として、「放射線対策をめぐるニセ科学の数々」も目立ちます。ニセ科学は、理科教育や科学リテラシーの育成の基盤を崩し、まともな商品や治療法、環境活動などから遠ざけ、社会にとってマイナスの存在です。本分科会では、次のようなことをじっくりと議論していきたいと思います。・ニセ科学の現状・ニセ科学はなぜはびこるか・個別的にニセ科学の問題点・ニセ科学に抗して行くには・科学リテラシーの育成の活動

#### 【18】分科会名：首都圏で生き抜くための防災・減災対策

設置責任者：坂巻幸雄・中山俊雄・川合将文

連絡先：坂巻幸雄 DZZ03766@nifty.ne.jp

設置趣旨：首都直下地震の危険が叫ばれて久しいが、都市の防災力強化とは相反する大規模開発の

波は、ますます加速されてきている。一方で、この傾向に懸念を抱く住民層からは、自主的な防災・減災のための調査・学習活動や、科学者との新たな連携も始まってきている。この分科会ではそれらの活動体験を交流しつつ、新しい展望の構築へ向けて、論議をさらに深めたい。

#### 【19】分科会名：06年教育基本法下での教育政策の特質と新指導要領導入後の歴史教育—東京の教育問題・教員養成を巡る諸課題・歴史教科書のあり方—

設置責任者：小嶋茂稔

連絡先：kakoji@jcom.home.ne.jp

設置趣旨：2006年教育基本法の施行とそれともなう学習指導要領の改訂は教育行政や教育現場に様々な影響をもたらしています。文科省の検定を通過した高校日本史教科書の採択を妨害する都教委や神奈川県教委の暴挙からは、今後ますます“上意下達”的な教育行政が推進される怖れを感じざるを得ません。この分科会では、高校用実教出版日本史教科書の採択妨害を巡る動きを整理・紹介する他、新学習指導要領のもとでの歴史教科書のあり方がどのように変化したかといったような問題も追求したいと考えています。あわせて、昨今の文科省の大学政策のうち、教員養成系大学・学部に対する動向を整理・紹介しつつ、あまり注目されることの少ない、「教員養成」のあり方についても現状を紹介しながら批判的に分析したいと考えています。

### 4. ポスターセッションの募集

統括設置責任：日本科学者会議東京支部事務局

設置趣旨：東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

### 5. 展示（シンポジウム期間中開催）

#### 【1】日中友好と歴史認識のための展示

設置責任者：長沼 仁（撫順の奇蹟を受け継ぐ会東京支部）

展示内容：日中友好を推し進める「撫順から未来を語る」活動を紹介する。一つの町に併存する正と負の日中歴史事件、中国帰還者連絡会を生み出した撫順戦犯管理所と日本軍による大虐殺事件平頂山事件。現在も継続する日中双方の活動と築かれていく人間関係に着目いただきたい。

#### 【2】日本・キューバ友好の展示

展示責任者：増澤誠一（日本キューバ友好協会）

設置趣旨：超大国・米国のお膝元で、社会主義建設を進めているキューバ。

そのキューバに関する知見や文化を紹介します。多面的にキューバを体験して下さい！

### 6. プレ企画イベント

#### 【1】東京科学シンポジウム記念囲碁大会

盤をはさんでの熱戦のあと、懇談を交えて大いに親睦を深めましょう

企画責任者：小嶋茂稔、矢作英夫、長田好弘

日時：10月27日（日）

場所：中央線沿線、井の頭線沿線、京王線沿線で検討中

会費：500円（優勝カップ、茶菓子などの費用）

試合形式：1チーム3名の団体戦、個人参加による混成チームも可

（大会終了後、懇親会（希望者）もあります）

#### 【2】平和のためのコンサート

クラシック、ジャズギター、歌曲など多彩な調べと、ワインを楽しみましょう。

企画責任者：松永光司、長田好弘、他

日時：11月24日（日）午後5時～7時30分、会場：佐野書院（一橋大、国立市）

会費：検討中（およそ一般2,000円、院生・学生半額程度）

## 第17回東京科学シンポジウム 論文発表申し込み用紙

2013年\_\_月\_\_日 (受付番号\_\_\_\_\_)

お名前	フリガナ:
ご住所	〒
連絡先	TEL : FAX : E-mail :
希望分科会名	
論文タイトル	
著者名 (所属 or 肩書き) 連名の場合全員の名前	( )

概要 (200字~400字)

(注) 原則としてeメールで申込みください。(上記書式でなく必要事項を明記した text 送信も可)。必要事項: 申込者氏名(フリガナ)・住所・連絡先(電話・Fax, e-mail)・発表希望分科会・論文題名・著者名・所属 or 肩書き・論文概要(200~400字)。(eメールが不可能な場合、郵送・Faxでの申込みも受け付けます)

## 6. 分科会の設置／論文発表募集と論文予稿の提出

設置責任者は、分科会への発表論文応募を積極的に働きかけ、期限を厳守してください。

### ①各分科会への論文発表申込

必要事項（申込者氏名・フリガナ・住所・連絡先（電話・Fax・e-mail）・発表希望分科会・論文題名・著者名・所属 or 肩書き・論文概要 200～400 字）を記入し、原則として電子メールで申込み下さい（eメールが不可能な場合はFax、郵送も受け付けます）。申込み用紙は前頁にあります。また日本科学者会議東京支部ホームページ（<http://www.jsa-t.jp/index.html>）にもあります。

**申込先**：17th-kagaku@jsa-t.jp 「日本科学者会議東京科学シンポジウム実行委員会」宛  
**論文発表申込の締切日**： 10月1日（火曜日）

### ②論文予稿の提出

予稿は、A4判2ページ以内で、テンプレートによる統一形式とします。（作成ソフトは原則としてWordとします）。統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

**送付先**：17th-kagaku@jsa-t.jp 予稿のファイル（Word）をメールに添付下さい。  
**論文予稿の提出締切日**： 10月20日（日曜日）

## 7. シンポジウム会場&懇親会

**会場**：中央大学・多摩キャンパス（東京都八王子市東中野 742-1）

詳しくは <http://www.chuo-u.ac.jp/campusmap/tama/> を参照下さい。

**懇親会**：11月30日(土)夜、中央大学・多摩キャンパスを予定。

## 8. 開催日程（会場の都合等で一部変更となる場合があります）・参加費

	時間帯	内容
11月30日(土)	10:00～10:30	受付
	10:30～13:00	分科会
	14:00～17:30	特別報告
	18:00～	懇親会
12月1日(日)	10:00～13:00	分科会
	14:00～17:30	分科会

	参加費	懇親会費
一般	1,000円	3,000円
院生・学生	500円	1,000円

\*会員・非会員の区別はありません。  
参加費には予稿集代金を含みます。

## 第17回東京科学シンポジウム実行委員会

**実行委員長**：長田好弘(支部代表幹事)

**事務局長**：松永光司(支部事務局長)

**実行委員**：池上幸江(支部代表幹事)、石渡真理子(支部常任幹事)、河上茂(支部常任幹事)、  
衣川清子(支部常任幹事)、小金澤鋼一(支部常任幹事)、柴田和宏(支部常任幹事)、佐川清隆  
(東京支部)、佐久間英俊(支部幹事)、多羅尾光徳(支部常任幹事)、中野貞彦(武蔵野通研分会)、  
橋本良仁(支部幹事)、星野彬(支部幹事)、真嶋麻子(支部常任幹事)、俣野景彦(支部常任幹事)、  
峰尾菜生子(支部常任幹事)、米田貢(全国事務局長) (9月8日現在)

日本科学者会議東京支部 第17回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax：03-3811-8281 e-mail：17th-kagaku@jsa-t.jp